

## 編集後記

振り返ると昨年の科学技術界にも様々なできごとがありました。

日本人研究者によるノーベル物理学賞受賞はプラズマとは分野は違うものの大変に喜ばしく、ともすれば応用研究に偏りがちな昨今の情勢に一石を投じたもの、ともいえるでしょうか。

特に名古屋大学の天野浩教授は、大学院生時代から長い間、研究成果の芽が出ずに実験の失敗が千五百回を超えた、とのことです。その間は、相当程度にプレッシャーもあり、大変だったと想像されますが、それを糧にしての成果というのは本当に素晴らしいものだと思います。また長期間にわたりそれを支えた大学という環境を抜きにして語れないことだとも思います。

しかしその大学での研究環境も、そして大学自身も大きく変わろうとしています（あるいは一部では既に大きく変わっている）。他方で、昨今の若手研究者らは任期制のポジションに付くことで、どうしても短い期間での成果が求められます。さっそうと現れた若手研究者による STAP 細胞の存在は、もはや幻となりました。長期間にわたる研究成果としての青色 LED の成功と反して、短期間ですい星のよ

うに現れた STAP 細胞というのは、現代の科学技術の光と影なのかもしれません。

私達は、プラズマを基盤とする科学技術の研究開発に取り組んでいます。学術的興味に基づいたプラズマの基礎学理を行う部分と（主に予算の関係で）数年程度で短期的な成果の求められる応用分野の狭間で、今後も悩み、またその時々々の国の施策により翻弄される部分もあるのでしょう。しかしながら長期間にわたる研究によってもたらされる成果と、比較的、短期間で出口を見据えた応用研究のあり方を、今一度、考え直す岐路に立っているように思います。

私自身が答えをもっているわけではありませんが、若手研究者の皆さんには、ご自身のおかれた環境の中で、他分野の研究動向も勉強しながら、あせらずに研究テーマを考えてもらえたらと思います。また先生方には論文の出ない期間こそが、若手研究者を育てている大切な期間だということ（様々に制約はあるかと思いますが）ご理解いただき、今後、30年後の日本の科学技術が花開くような種まきをお願いしたいと思います。（清水一男）

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副 会 長	永津 雅章（推薦委員長：研究助成）	小森 彰夫（推薦委員長：学会賞）
常務理事	室賀 健夫（総務委員長）			
理 事	安藤 晃（企画委員長）	石原 修	上田 良夫	
	小野 靖	甲斐 俊也（財務委員長）	草間 義紀（広報委員長）	
	佐々木浩一	清水 克祐	白神 宏之（支部・地区研究連絡会委員長）	
	白谷 正治（研究部会連絡委員長）	豊田 浩孝（編集委員長）	波多野雄治	
	福山 淳（年会運営委員長）	米田 仁紀		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：豊田浩孝（名大） 副委員長：米田仁紀（電通大）

エディタ：安藤 晃（東北大）、坂本瑞樹（筑波大）、中村祐司（京大）、長友英夫（阪大）、小西哲之（京大） 佐々木浩一（北大）

編集委員：石澤明宏（核融合研）、内田儀一郎（阪大）、浦野 創（原子力機構）、落合謙太郎（原子力機構）、陰山 聡（神戸大）、笠田竜太（京大）、糟谷直宏（九大）、加道雅孝（原子力機構）、川崎仁晴（佐世保高専）、柴田裕実（阪大）、清水一男（静岡大）、白石裕之（大同大）、城崎知至（広島大）、鈴木達也（長岡技科大）、高橋俊樹（群馬大）、徳沢季彦（核融合研）、沼田龍介（兵庫県立大）、長谷川純（東工大）、林 信哉（九大）、菱沼良光（核融合研）、古川 勝（鳥取大）、増井博一（九工大）、松岡彩子（JAXA）、宮澤順一（核融合研）、森 芳孝（光産業創成大学院大）、森本泰臣（日揮）、山本 聡（京大）

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第91巻第2号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2015年（平成27年）2月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,300円（税別）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。